



図 25 脾彎曲（背臥位第 2 斜位）



図 26 脾彎曲（腹臥位第 2 斜位）

下行結腸を二重造影にするには、背腹方向に蛇行した腸管にたまったバリウムを S 状結腸に移動させる必要がある。頭側に移動させるには頭低位にする。尾側に移動するには半立位にし、移動方向に透視台を傾斜し、第 2 斜位で最も広く腸管が観察できる体位にし、そこを基準にし $\pm 90^\circ$ 程度の体位変換を行うと、S 状結腸側にバリウムが移動する（図 24）。

c. 脾彎曲（左結腸曲）

(1) 撮影体位

基本的な撮影体位として、背臥位第 2 斜位、腹臥位第 2 斜位の 2 方向から呼気で撮影する。
標準的な脾彎曲の撮影体位と X 線像を図 25, 26 に示す。

(2) バリウムの移動方法

「b. (2) バリウムの移動方法」を参照。

(3) 撮影法の工夫

透視台は水平が望ましいが、バリウムの残存がある場合、やや頭高位にすると描出の範囲が広がる。腸管の走行が背腹方向に蛇行していることが多い部位なので、透視観察によって描出範囲の広い体位で撮影することが望ましい。

d. 横行結腸

(1) 撮影体位

基本的な撮影体位として、背臥位正面、腹臥位正面の 2 方向から撮影する。